

都市再生整備計画

越前おおの城下町地区(4期)

(第3回変更)

ふくい 福井県 おおのし 大野市

令和8年3月

事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	■
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	□
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	福井県	市町村名	おおのし 大野市	地区名	えちぜん じょうかまち 越前おおの城下町地区(4期)(都市構造再編集中支援事業)	面積	178	ha
計画期間	令和	5	年度	～	令和	9	年度	
	交付期間	令和	5	年度	～	令和	9	年度

<p>目標</p> <p>「人がつながり地域がつながる住み続けたいまちづくり」</p> <p>目標1:安心して子育てができ、子どもたちがふるさとを愛する心を育むまちづくり</p> <p>目標2:広域ネットワークの整備効果を活かした中心市街地の賑わい、経済活力の向上</p>
<p>目標設定の根拠</p> <p>都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針)</p> <p>本市では、昭和49年に民間鉄道が廃線となり、駅前として栄えてきた三番通りをはじめ中心市街地(旧城下町)の人の通行量が減少し始めた。また、高度経済成長やモータリゼーションの進展、国道のバイパス整備により、郊外に次々と大規模小売店舗の立地が進み、商業の拡散が進んできている。中心市街地では、商業活動の衰退、後継者不足等により、空き店舗及び空き家が増加し、集客力や人口が減少して活力を失うという悪循環に陥った。一方で、中心市街地には、市役所や教育施設、図書館など公共施設が多く立地していることや、旧城下町という特性から歴史的・文化的資源、景観資源が多く残されている。</p> <p>このような状況から、過疎化する市街地、少子化および教育施設の老朽化対策として市街地に教育施設を集約させるとともに、子育て世代への支援を充実させることで都市機能の維持・集約や居住環境の魅力向上、継承・蓄積されている資源の利活用を図り、「人がつながり地域がつながる住み続けたいまちづくり」を進める。</p> <p>なお、旧城下町エリアの価値向上を目指して、道路や公共施設の利活用・再整備について官民連携で立案し、整備・活用することでエリア内の魅力向上と本市への帰属意識向上を図る。</p>
<p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>本市の中心市街地は、織田信長の部将、金森長近が1580年に亀山に城を築き、その東麓に東西六条、南北六条の基盤の目の城下町を造ったのが始まりで、このとき整備された町並みが今日の中心市街地の骨格となっている。また、本市は湧水が多く、名水百選にも選ばれている「御清水」をはじめとする湧水地がいくつもあり、城下町誕生の頃から地下水を生活用水として利用しており、水が市民生活に深く関与し、独自の生活様式や水文化を醸成してきた。昭和40年ごろまではこの城下町を中心としたコンパクトな都市構造であったが、車社会の到来や高度経済成長の影響を受け、徐々に市街地が拡大し、徒歩でどこでも行くことができたコンパクトな市街地としての特性が失われ始めた。また、核家族化の進展に伴い若い世代が郊外へ流出し、高齢化や空洞化、活力の低下が進んだ。</p> <p>そこで、平成15年に、来訪者が滞在し回遊する魅力と、まちなかに暮らす環境と魅力を併せ持つ新たな中心市街地像を目標に「街なみ環境整備事業整備方針」を策定し、歴史的市街地の再生と生活空間の持続的再編に取り組み始めた。そして平成20年に国より中心市街地活性化基本計画の認定を受けて、まちの顔であり宝である中心市街地を「人が集い、活気に満ちた城下町」に再生するため、都市機能の回復や魅力向上、公共交通の利便性の向上に取り組んできたところである。具体的には、結ステーション周辺の城下町エリアでは亀山公園や水の見えるまちづくりをコンセプトとして百間堀、新堀清水、湧水地散策広場を整備するとともに、「水」や「湧水文化」の保全・継承、活用といった総合的に取り組むための施設「水の学校」を整備することで当市ならではの歴史的資源に磨きがかかり、多彩な交流ができる、個性あるまちの形成が図られた。</p> <p>また、市役所周辺の防災拠点エリアには、保健・医療・福祉サービス拠点施設や子育て支援センター、地域交流センター、防災倉庫等の整備など公共公益施設の中心市街地への集約を進め、市民の利便性の向上、行政機能の充実が図られた。さらに、まちづくりを支援する役割を担う公共交通については、ネットワークの維持や需要に応じた運行形態の工夫はもとより、多様なサービスの提供による利用促進を図ってきた。これらの取り組みにより、市民や観光客が中心市街地に訪れやすい環境が整備され、また、まちなかの利便性が高められたことで、着実に活気に満ちた城下町の再生につながってきている。</p> <p>一方、これまでは全般的に行政が中心となり、市民の「暮らし」に必要な基盤整備を多く実施してきたところであり、今後は、民間の「稼ぐ力」「市民力」「地域力」を向上させるため官民連携したまちづくりに取り組むことで郷土に愛着を持ち、「市民が誇りを感じて住み続けたい」と思い、市外の人が移り住みたいと思う、個性を生かした都市づくりを促進する。併せて過疎化する市街地、少子化および教育・文化施設の老朽化対策として、市街地に教育施設を集約させるとともに、子育て世代への支援を充実させ、歴史・文化資源を活用することで都市機能の維持・集約や居住環境の魅力向上、地域資源の利活用を図り、「人がつながり地域がつながる住み続けたいまちづくり」を進める。</p> <p>また、令和6年度の北陸新幹線福井開業や令和11年の中部縦貫自動車道全線開通により期待される新しい人の流れを最大限に活用できるよう、既存の観光資源のさらなる磨き上げや時代に即した戦略的な観光施策の推進など、より一層の取り組みが必要である。</p> <p>さらに、全国各地で水害をはじめとした大規模な自然災害が発生しており、居住誘導区域内で浸水被害を受けるなど、都市機能や居住の誘導にあたってどのように安全を確保するかという課題が浮き彫りとなりつつある。近年、頻発・激化する自然災害を踏まえ、居住や都市機能の誘導を図る上で必要となる都市の防災に関する機能確保を図るための指針を定め、災害ハザードエリアにおける具体的な取組を進める。</p>
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過疎化する市街地、少子化および教育施設の老朽化対策として市街地への教育施設を集約・整備により居住の誘導を図る必要がある。 ・市街地の中心部において子育て世代への支援を充実させ、交流できる場を提供することで市民が気軽に市街地に訪れることができ、集うことができる仕組みづくりに取り組む必要がある。 ・魅力ある人・モノ、きっかけの提供などを促進することで、中心市街地に足を運ぶ機会の充実を図り滞在時間を延ばす工夫が求められているとともに、高速交通体系の整備を見据え、官民連携した地域資源のさらなる磨き上げによる訪れたい環境の創出が必要である。
<p>将来ビジョン(中長期)</p> <p>【第6次大野市総合計画(令和3年2月策定)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○まちづくりの将来像:「人がつながり地域がつながる 住み続けたい結のまち」 ○基本目標:①未来を拓く大野っ子が健やかに育つまち、②健康で自分らしく暮らせるまち、③歴史・風土と新たな強みを生かした活力あるまち、④豊かな自然の中で快適に暮らせるまち、⑤みんなでつながり地域が生き生きと輝くまち、⑥結のまちを持続的に支える自治体経営 <p>【大野市立地適正化計画(平成29年度策定予定)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○まちづくりの理念:市街地や既存集落の活力維持と公共交通等の充実により高齢者や現役世代等、誰もが安全・安心、健康、快適に暮らし続けることができるコンパクトな城下町 越前おおの ○まちづくりの目標:①市民が住み続けたいと思ひ、来訪者が住んでみたいと思ふまちづくり、②暮らしに必要な様々な機能等が集まり、歩いて暮らせる健康なまちづくり、③人、歴史、文化、伝統、自然環境、食等の資源を活用した交流のあるまちづくり <p>【大野市都市マスタープラン(平成23年7月策定、令和4年12月改訂)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○都市づくりの目標:「誰もが結の心で安全・安心に、にぎわいの中で住み続けられるまち」 ○基本姿勢:①連携、協働により地域課題に取り組む都市づくり、②安全、安心、快適な市民生活が実感できる都市づくり、③地域資源と新たな強みを生かし交流と活力を生み出す都市づくり、④未来技術でさまざまな地域課題の解消に挑戦する都市づくり <p>【越前おおの観光戦略ビジョン(平成29年3月策定)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本理念:磨き輝かそう大野の宝、もてなそう結の心で ○基本戦略:地域資源の魅力の向上、おもてなし力の向上、周遊・滞在型観光の推進、広域観光交流の拡大 <p>【大野市総合戦略(平成27年10月策定)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○方向性:①新しい人の流れをつくる、②時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する ○基本的方向:①越前おおのブランド戦略の推進、①中心市街地の活性化とまちなか観光の推進、①魅力的な居住地づくり、①訪れたい環境の創出、②連携のまちづくりの推進、②暮らしやすい環境の整備、②特色を生かしたまちづくり、②市民力・地域力の向上 <p>【大野市公共施設等総合管理計画(平成29年3月策定)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○公共施設については、適正配置及び適切な維持管理・修繕等に取り組む、複合化や管理運営の効率化、政策課題を解決するための必要性を検証し、改築、新規整備等に取り組む。 <p>【大野市小中学校再編計画(平成29年1月策定、令和3年12月改訂)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市の目指す学校教育:①大野らしさが生きる教育を進める②市の地域性を生かした教育を進める③大野市教育理念を具現化する

都市構造再編集支援事業の計画

都市機能配置の考え方

・市街地中心部に立地する市役所や図書館、結ステーションなどの公共施設を軸として都市機能を集約・改築し、旧城下町と連携した観光・教育機能の強化を進めることにより、快適で活気のあるまちづくりを進める。
 そのうち、小中学校などの教育施設を都市機能誘導区域内に統合配置することで教育施設の集約および居住の誘導を図り、市街地中心部に子育て世代支援のための遊び場および研修機能を備えた施設を整備することにより、市街地に訪れやすく多世代が交流しやすい仕組みづくりすることで旧城下町エリア活性との連携を図る。なお、旧城下町エリアについては「稼ぐ力」の向上を目的として新規参入事業者への支援やSNSを活用した情報発信、さらには公共交通の充実を図ることでもちの魅力を向上させ、愛着を持てるまちづくりを進める。
 また、統合配置によって用途廃止される小中学校などの教育施設は災害時の指定避難所に指定されていることから、施設の最適化を図り防災機能を確保する。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方

過疎化による市街地の空洞化および少子化への対策として都市機能誘導区域内に郊外の小学校、中学校を統合整備することで教育施設の強化および居住誘導を図り、居住誘導区域内の人口密度を維持し、著しい地価の下落を抑制する。また、市の中心部に位置する既存建造物を活用して子育て世代支援のための遊び場および研修機能を備えた「子育て世代活動支援センター」を整備することにより、市街地や商店街に訪れやすく、郊外の大型ショッピングセンターへの流出を抑制することで市街地の活性を図る。
 また、令和5年秋に中部縦貫自動車道の大野IC～和泉ICが開通されることから、加速化する広域交通ネットワークに対応した公共交通の充実を図り、官民連携した公共施設の再整備や新規事業者への支援を図ることで中心市街地における「稼ぐ力」の向上を目指すし、SNSやVRなどを活用して新たな情報発信を強化することにより、市外からの来訪者を確実に集客し、市街地の活性につなげる。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
まちなかの観光入込客数	(人/年)	中心市街地における年間の観光入込客数	高速交通体系の整備効果を活かして、中心市街地をさらに活性化させ、観光客数の増加を図る。	359,900(人/年)	R3年度	516,507(人/年)	R9年度
子育て拠点施設の利用者数	(人/年)	子育て拠点施設の利用者数(地域子育て支援センター、ちっく・たっく(仮称)子どもの遊び場)	中心市街地に位置する子育て拠点施設の利用を促進することで商店街への来訪者を増加させ、市街地の活性を図る。	12,018(人/年)	R3年度	37,560(人/年)	R9年度
中心市街地の地価下落率	(%)	市街地における地価の下落率	地域の魅力を向上させるとして人口の維持や誘客を図り、地価の現状推移より減少傾向(下落率)を抑制する。	6.78(%)	R2～R4の平均	5.77(%)	R7～R9の平均

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【安心して子育てができ、子どもたちがふるさとを愛する心を育むまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校などの教育施設を統合整備することにより、市街地への居住誘導を図るとともに都市の持続と地域の活性を図る。 ・多くの子どもたちが安心して学び・遊べる子育て支援施設を整備することで、新たに人々が集まり・交流できる場を提供し、併せて中心市街地の活性につなげる。 ・市民の文化力の向上や来訪者に歴史的・文化的資源を通じた交流の場を提供することで、中心市街地の活性化を図る。 	<p>【基幹事業】(誘導施設)小学校統廃合整備事業 【基幹事業】(誘導施設)中学校統廃合整備事業 【基幹事業】(既存建造物活用事業)(仮称)子どもの遊び場整備事業 【基幹事業】(高質空間形成施設)七間通り舗装美化</p>
<p>【広域ネットワークの整備効果を活かした中心市街地の賑わい、経済活力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中部縦貫自動車道の全線開通を見据え、福井県の玄関口としての優位性を活かした観光を推進する中で、観光客へのサービス向上やリピーターを確保するため、道路の路肩活用実証実験や市街地公共施設・観光施設の改築を行うことで中心市街地エリアの価値向上を図る。 ・また、市の中心部にあり400年以上続く「七間朝市」が開催されている七間通りについて、美装化舗装を行うことにより伝統文化のさらなる魅力向上を図る。 ・SNSやVR(疑似体験)を活用して新たな市街地の魅力発信に取り組むとともに、新規事業者への支援を充実させることで併せて市街地の活性を図る。 	<p>【提案事業】(地域創造支援事業)店舗育成事業 【提案事業】(まちづくり活動推進事業)SNS活用促進・情報発信事業 【提案事業】(まちづくり活動推進事業)歩きたくなるまちづくり推進事業 【関連事業】中部縦貫自動車道(一般国道158号)</p>
<p>その他</p>	
<p>【その他官民協働の取り組み事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、地区内には「七間商店街振興組合」、「五番商店街振興組合」、「大野三番商店街振興組合」、「六間通り商店街振興組合」、「春日通り商店街振興組合」、「七間朝市振興協議会」等の団体により、400年以上続く朝市と連携した「三大朝市物産まつり」や各商店街において地域の特性に合わせた賑わい創出イベントを実施し、中心市街地の活性化に寄与している。 <p>【重点的に取り組むテーマ】</p> <p>城下町エリア価値向上のための官民連携した社会実験</p> <p>令和5年度より地区の商店街団体や商工会議所、地元区民と連携してまちづくり・市街地活性に対するワークショップを開催し、そこで提案された計画を元にエリア価値向上のための様々な社会実験を実施する。</p>	

目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項(都市構造再編集支援事業)

様式(1)-④-1

交付対象事業費	1,783	交付限度額	891.5	国費率	0.5
---------	-------	-------	-------	-----	-----

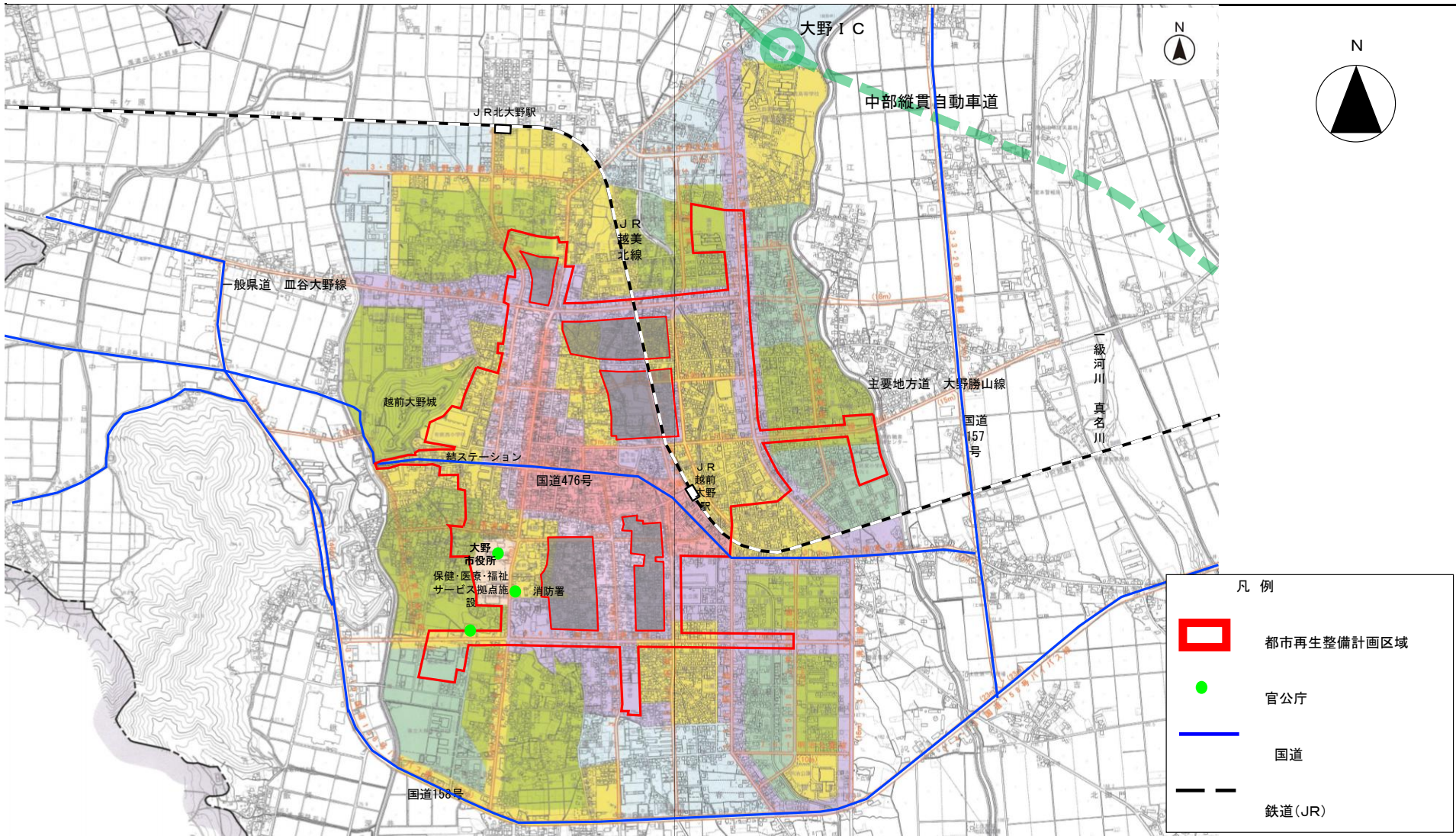
(金額の単位は百万円)

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費	費用便益比B/C
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度						
道路															
公園															
古都保存・緑地保全等事業															
河川															
下水道															
駐車場有効利用システム															
地域生活基盤施設															
高質空間形成施設	七間通り舗装美装化		大野市	直	380m	6	9	6	9	128	128	128		128	
高次都市施設	地域交流センター														
	観光交流センター														
	テレワーク拠点施設														
	賑わい・交流創出施設														
	賑わい・交流創出施設(地域資源活用型)														
	子育て世代活動支援センター														
	複合交通センター														
誘導施設	医療施設														
	社会福祉施設														
	教育文化施設	小学校統合整備 下庄小学校	大野市	直	12,300㎡	4	6	6	6	32	32	32		32	1.85
	教育文化施設	小学校統合整備2 有終南小学校	大野市	直	7,930㎡	5	9	6	9	45	45	45		45	1.05
	教育文化施設	中学校統合整備 陽明中学校	大野市	直	23,500㎡	7	7	7	7	70	70	70		70	2.15
	教育文化施設	中学校統合整備2 開成中学校	大野市	直	24,750㎡	7	7	7	7	115	115	115		115	1.33
	子育て支援施設														
	元地の管理の適正化	小学校統合整備 乾側小学校	大野市	直	18,200㎡	5	9	5	9	711	711	711		711	
	元地の管理の適正化	中学校統合整備 尚徳中学校	大野市	直	42600㎡	7	9	7	9	415	415	415		415	
広域連携誘導施設															
既存建造物活用事業	子育て世代活動支援センター	(仮称)子どもの遊び場整備	大野市	直	1,700㎡	4	6	5	6	220	220	220		220	-
土地区画整理事業															
市街地再開発事業															
住宅街区整備事業															
バリアフリー環境整備事業															
優良建築物等整備事業															
住宅市街地総合整備事業															
街なみ環境整備事業		景観形成地区(七間、寺町、五番通り)	大野市	間	8.2ha	H27	R9	5	9	158	15	10	5	15	2.32
住宅地区改良事業等															
都心共同住宅供給事業															
公営住宅等整備															
都市再生住宅等整備															
防災街区整備事業															
復興促進事業															
エリア価値向上整備事業															
こどもまんなかまちづくり事業															
暑熱対策事業															
合計										1,894	1,751	1,746	5	1,751	…A

都市再生整備計画全体のB/Cを算出する場合、記入

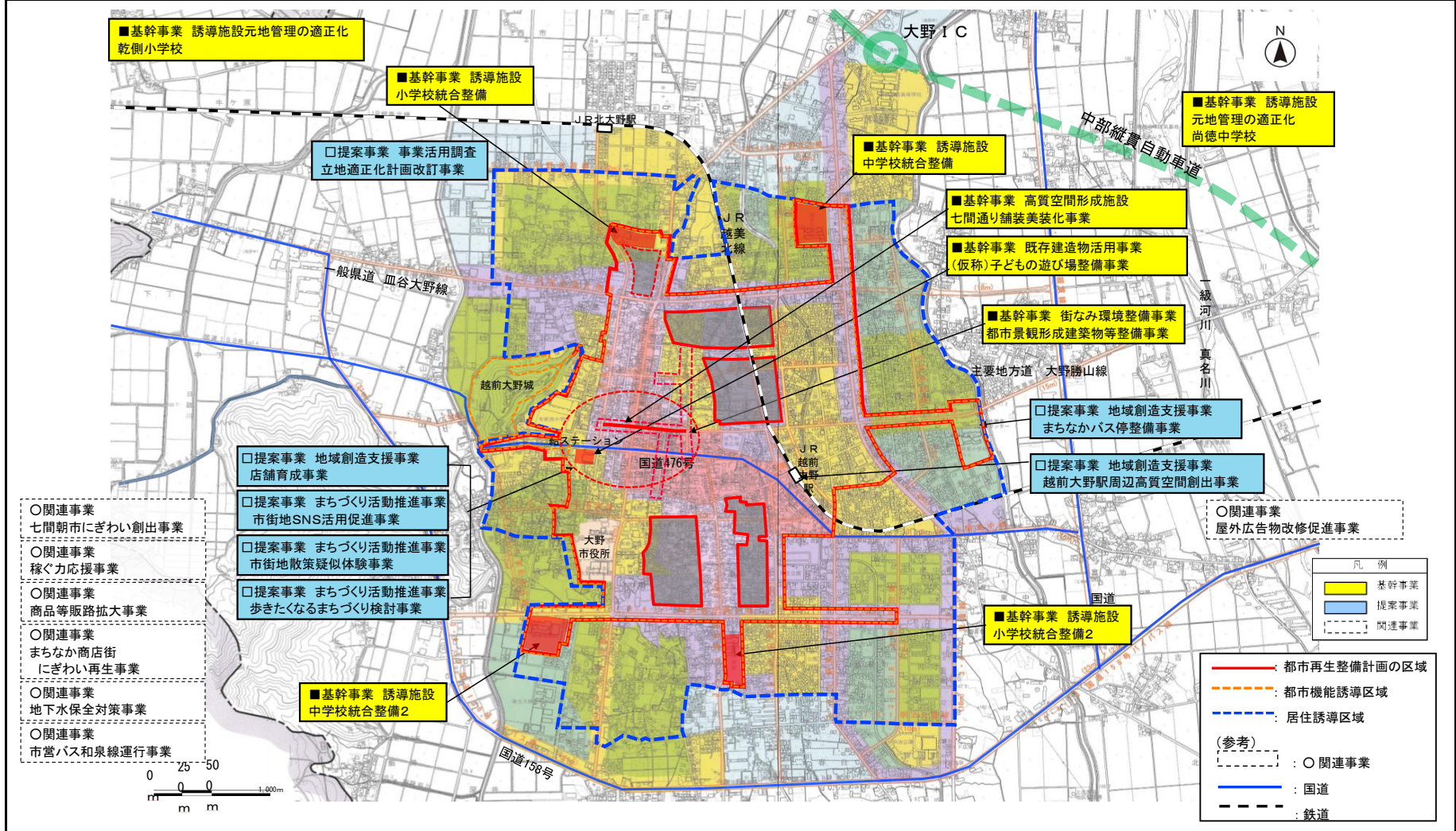
事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費	
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度						
地域創造支援事業	店舗育成事業	中心市街地	大野市	間	5件	5	9	5	9	5	5	5	10	5	
	まちなかバス停整備事業	中心市街地	大野市	直	1件	5	5	5	5	8	8	6		8	
	越前大野駅周辺高質空間創出事業	越前大野駅周辺	大野市	直	1件	5	5	5	5	3	3	3		3	
事業活用調査	立地適正化計画の改訂	立地適正化計画区域内	大野市	直	1件	5	6	5	6	6	6	6		6	
まちづくり活動推進事業	SNS活用促進・情報発信事業	中心市街地	大野市	直	1件	5	7	5	7	3	3	3		3	
	市街地散策疑似体験事業	中心市街地	大野市	直	1件	5	6	5	6	2	2	2		2	
	歩きたくなるまちづくり検討事業	中心市街地	大野市	直	1件	6	6	6	6	5	5	5		5	
合計										32	32	30	10	32	…B

越前おおの城下町地区(4期)(福井県大野市)	面積	178 ha	区域	要町、本町、元町、明倫町の全部、泉町、城町、水落町、泉町、中野町一丁目、中野町二丁目、中野町三丁目、中荒井町一丁目、中荒井町二丁目、錦町、大和町、陽明町一丁目、陽明町二丁目、陽明町三丁目、中挟一丁目、美里町、美川町、月美町、有明町、弥生町、日吉町、高砂町、春日一丁目、春日二丁目、春日三丁目、糸魚町、新庄、篠座の一部
------------------------	----	--------	----	--



越前おおの城下町地区(4期)(福井県大野市) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

目標	「人がつながり地域がつながる住み続けたいまちづくり」	代表的な指標	まちなかの観光入込客数 (人/年)	359,900(人/年)	R3年度 →	516,507(人/年)	R9年度
	目標1: 安心して子育てができ、子どもたちがふるさとを愛する心を育むまちづくり		子育て拠点施設の利用者数 (人/年)	12,018(人/年)	R3年度 →	37,560(人/年)	R9年度
	目標2: 広域ネットワークの整備効果を活かした中心市街地の賑わい、経済活力の向上		中心市街地の地価下落率 (%)	6.78(%)	R2~R4の平均 →	5.77(%)	R7~R9の平均



都市構造再編集集中支援事業事前評価シート

計画の名称:越前おおの城下町地区(4期) 事業主体名: 福井県大野市

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①都市再生基本方針との適合等	
1)まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	○
2)上位計画等と整合性が確保されている。	○
②地域の課題への対応	
1)地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	○
2)まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等	
1)目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
2)指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
3)目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	○
4)指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
5)地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	○
④事業の効果	
1)十分な事業効果が確認されている。	○
2)事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性	
⑤地元の熱意	
1)まちづくりに向けた機運がある。	○
2)住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	○
3)継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
⑥円滑な事業執行の環境	
1)計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○
2)交付期間中の計画管理(モニタリング)を実施する予定である。	○
3)計画について住民等との間で合意が形成されている。	○